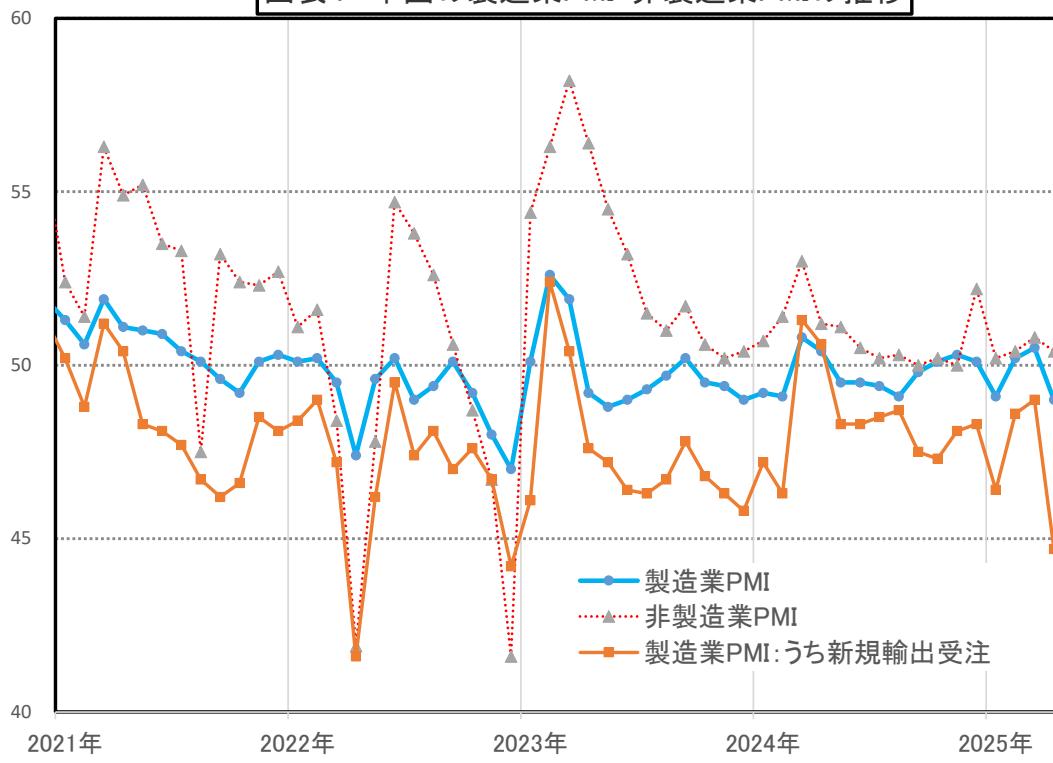


(中国)トランプ関税の悪影響で再び50割れとなった4月の製造業PMI

4月入り後の米トランプ政権による関税強化策をめぐり米中間の激しい応酬合戦が繰り広げられ、企業マインドへの影響が大きく懸念されている。中国国家統計局が4月30日に発表した2025年4月の製造業PMI(購買担当者景気指数)は49.0と判断基準の50を再び割り込んだ(図表1)。

図表1 中国の製造業PMI・非製造業PMIの推移



(資料) 中国国家統計局、Windより作成、直近は25年4月。

製造業PMIのサブ指標を確認すると、4月の新規受注と新規輸出受注はそれぞれ49.2、44.7といずれも50割れとなった。特に、米国が中国からの輸入品に高関税を賦課したほか、海外経済の下振れに伴う外需の弱さもあり、新規輸出受注は3月から4.3ポイントも低下した。また、輸入と出荷価格はそれぞれ43.4、44.8といずれも3月から大きく低下した。このように内外需要の弱さに加えて出荷価格の下落から生産も49.8と50を下回った。

一方、4月の非製造業PMIは50.4と3月からやや低下したものの、50を上回った。建設業は51.9と底堅く推移したが、うち土木工事が60.9と3月から6.4ポイントも上昇した。また、サービス業のPMIも50.1と3月からやや低下したものの、50超を維持した。

このようにトランプ関税による中国の製造業への悪影響が見て取れる。米中対立が当面続く可能性が高く、関税による中国経済への悪影響を緩和するため、今後数か月で新たな景気刺激策が打ち出されるとみられる。